

銀 杏 の 生 産 と 流 通 (Ⅱ)

九州大学農学部 青木 尊重
福岡県林業試験場 中島 康博
福岡県 野口 良人

1. 福岡県朝倉郡杷木町内のイチョウの栽培実態

福岡県朝倉郡杷木町では、実生によって繁殖した在来種(杷木町の大山地区には、樹齢300年以上といわれている成熟木が150本以上も集団的に生立している地区がある。)と久寿・藤九郎・金兵衛等の改良種が栽培されている。杷木町農協の担当者の見解では、「改良種を栽培している人は、多い人でも3ha程度で、しかもほとんどが20年生以下であり、その30%程度は10年生以下である。また、本数的には、改良種が約1万本・在来種が約2万本と判断している。」という。

2. 杷木町農協の銀杏の取扱量と価格動向

目下のところ、銀杏の取扱量の約60%は在来種で、改良種は約40%とみなされている。

最近3カ年間の銀杏の推定生産量および農協への出荷量ならびに杷木町農協における取扱量と1Kg当たり単価については、表-1,2に示した。

販売方法は、生産者が採取・調整の上、農協へ出荷する方式が、近年ようやく定着し、町内の推定生産量の約75%が農協へ出荷され、「共選共販」の姿が整ってきたはじめてのころである。

出荷された銀杏は、農協において再度選別した上で10月から12月にかけて「入札方式」によって業者に販売されているが、入札会に参加する約20名の業者のほとんどは大分県下の方々である。

荷姿は、初期(10月)は0.5Kg詰め・中期(11月)は0.5Kg~1.0Kg詰め・後期(12月)は1.0Kg詰めのネット単位で、10Kg入りダンボール箱詰めの荷姿にして、入札会を執行している。

ただし、早生型の改良品種については、8月~9月にかけての硬核期をまって収穫し、9月の上旬~下旬に、10Kg箱詰めにして東京市場へ5~8tonが空輸されており、1Kg当たりの単価は2,500円~2,800円と

いう高値で引き取られているのが現状である。

なお、現在でも、仲買人に庭先渡しをしている生産者もあり、個人で青果市場へ出荷している場合もある。

3. 銀杏の市場動向

東京市場(約450ton)とのつながりの強いのは埼玉県と千葉県で、名古屋市場(約150ton)とのつながりの強いのは愛知県と岐阜県で、大阪市場(約120ton)とのつながりの強いのは九州地方(福岡県・熊本県・大分県)であり、福岡市場(21~43ton)や北九州市場(21~36ton)も福岡県・熊本県・大分県とのつながりが強い。銀杏の国内流通の総量は約1,000tonと専門家は推定しているとのことである。市場価格は、その年次の豊凶の差や国内の景気動向によって、かなりの変動がみられる(表-3)。福岡大同青果市場における最近6年間の取扱高は21~43tonで、金額的には3千円万~4千円の間である。高値の産地は愛知県(2,951円)・埼玉県(1,786円)で、九州産は885円(佐賀県)~1,158円(大分県)である。月別では、7月が1,721円・9月が1,483円・3月が1,307円・10月が1,028円と高値で、他の月は1,000円を割り込んでいる(表-4,5)。季節要因を吟味する必要がある。

4. 単価変動を分析するにあたっての問題点

価格に影響を及ぼす因子としては、①消費の実態と習慣・②在庫量・③貯蔵の費用・④輸入品や移入品の占める割合・⑤代替品との関係・⑥消費者の所得状況・⑦食生活パターンの変化・⑧他市場との関係・⑨品質・⑩季節等々を考へてみる必要がある。これらの資料を整えることが出来れば重回帰分析が可能となる。

表-1 杷木町産の銀杏の推定生産量及び農協への出荷量

区分	57	59	59	計
推定生産量(ton)	2.2.1	4.5.3	2.1.5	8.8.9
農協への出荷量(ton)	1.5.9	3.3.9	1.6.6	6.6.4
取扱比率(%)	7.2	7.5	7.7	7.5

※奇数年と偶数年との間に、2倍前後の較差を生じているのは、一つは高齢の在来種が多く、ほとんど肥培、その他の管理がなされず、自然結果にゆだねられているためであり、今一つは未だ改良種は幼樹樹の占める割合が高いためである。

表-3 福岡大同青果市場における銀杏の年次別取扱数量および1Kg当たり平均単価

項目	54	55	56	57	58	59
入荷量(ton)	2.1.4	2.4.0	3.2.0	2.4.1	4.3.0	3.0.3
1Kg当たり平均単価(円)	1,280	1,635	1,172	1,642	931	986

表-4 福岡大同青果市場における昭和59年度の産地別の入荷量とその1Kg当たり平均単価

都府県	埼玉	東京	愛知	大阪	佐賀	熊本	大分	鹿児島	福岡
入荷量(Kg)	97.5 (0.3)	5.0	51.5 (0.2)	24.5 (0.1)	527.1 (1.7)	6,635.0 (21.9)	3,181.8 (10.9)	123.0 (0.4)	10,651.1 (64.9)
1Kg当たり平均単価(円)	1,786 (181)	874 (89)	2,951 (299)	1,816 (184)	885 (90)	1,004 (102)	1,158 (117)	1,031 (105)	944 (96)

表-5 福岡大同青果市場における昭和59年度の入荷月別1Kg当たり平均単価

月分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入荷量(Kg)	840 (2.8)	714 (2.3)	262 (0.9)	536 (1.8)	656 (2.2)	2,444 (8.1)	7,302 (24.1)	5,358 (17.7)	8,070 (26.7)	1,411 (4.6)	1,505 (4.9)	1,190 (3.9)
1Kg当たり平均単価(円)	877 (89)	742 (77)	665 (67)	1,721 (175)	1,070 (109)	1,483 (150)	1,028 (104)	905 (92)	807 (82)	926 (94)	954 (97)	1,307 (133)

表-2 杷木町農協における入札量と単価

(1) 昭和57年の入札結果

入札日	10.7	10.19	11.8	11.29	計
数量(Kg)	2,811	6,114	5,202	1,715	15,942
単価(円)	1,816	1,526	1,406	1,623	(平均)1,550

(2) 昭和58年の入札結果

入札日	10.15	10.25	11.11	12.3	12.23	計
数量(Kg)	7,552	5,730	12,222	7,032	1,375	33,881
単価(円)	968	872	496	430	237	(平均)640

(3) 昭和59年の入札結果

入札日	10.8	10.28	11.8	11.28	計
数量(Kg)	4,447	5,352	3,686	3,102	16,587
単価(円)	1,214	1,100	858	958	(平均)1,049